

排水対策と適期の播種作業で安定収量を確保！

排水対策で初期生育を確保

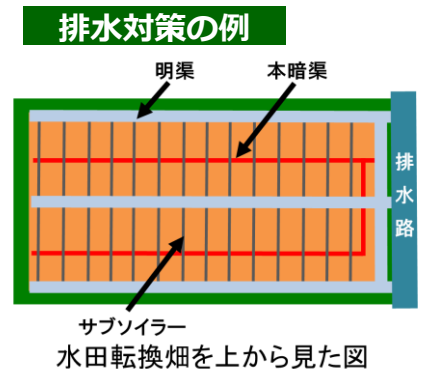
◎ 耕起前に、圃場周辺に明渠を掘り、確実に排水溝につながります。

排水溝につながっていないと明渠の効果は期待できません。

◎ 水田に隣接している圃場では、圃場周囲の明渠は特に深く掘りましょう。（**目標：地下水位 40 cm以下**）

◎ 水田転換畑では、明渠だけでなく心土破碎や弾丸暗渠等を組み合わせましょう。

◎ 播種後は、圃場の中央にも深さ 30cm 程度の溝を掘る等、排水対策を万全にしましょう。



適正な土づくり、施肥と耕起作業

◎ そばは、カルシウムの吸収が多い作物です。酸度矯正も兼ねて、**石灰資材を散布**しましょう。

◎ 施肥は**窒素成分で 2～4 kg/10a** とし、結実率や耐倒伏性の向上のため**リン酸とカリウムは 6～9 kg/10a** と窒素より多く施用します。

◎ 耕起・碎土は丁寧に行い、**耕深は 15 cm以上、破碎率（2 cm以下の土塊の割合）70%以上**を目標にしましょう。

【施用のめやす】

石灰資材（現物量）	苦土石灰 100 kg/10a		
基肥（成分量）	窒素 2～4 kg/10a	リン酸 6～9 kg/10a	カリウム 6～9 kg/10a

計画的な作業で、適期に播種しましょう！

◎ **播種は、平坦部で8月上旬、中山間部で7月下旬～8月初旬、山間部で7月下旬**を目安に行いましょう。

◎ 早播きは、徒長による倒伏や開花期高温による結実不良、晩播きは、生育量不足の懸念があります。**計画的な作業で適期播種を心掛けましょう。**

◎ 「**でわかおり**」の播種量は、ドリル播き（条播）で**5～6 kg/10a**、散播で**7～8 kg/10a**です。**播種深度は、2 cm程度**を目安に播種を行います。

◎ **苗立ち本数 150 本/m²**を目標とし、品種（粒の大きさ）、播種様式や播種の時期により播種量を調整しましょう。

農作業事故と熱中症に要注意！ 声をかけ合い農作業事故を防止しましょう！

複数人での作業実施、施設や道具の点検、転落防止のための対策などを徹底しましょう。

また、こまめな休憩と水分補給、ゆとりを持った無理のない作業を心掛けましょう。